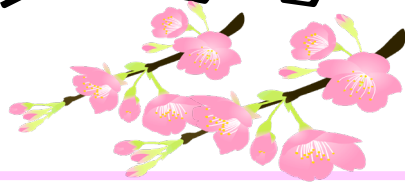


ザンワチャンネル



令和6年3月号



事前にやっておくべき災害対策

近年では、毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生しています。事前に準備できることは行い、しっかりと災害対策を行きましょう。

地震

・地震から身を守る行動（日常からの備え編）

1. 備蓄・非常持ち出し品の準備

非常時の水・食料の備蓄や懐中電灯、携帯トイレ、医療品、靴等をリュックに入れて事前に準備しましょう。

2. 安全スペースの確保

室内になるべくものを置かない「安全スペース」（ものが落ちてこない、倒れてこない、移動しない空間）を作っておきましょう。

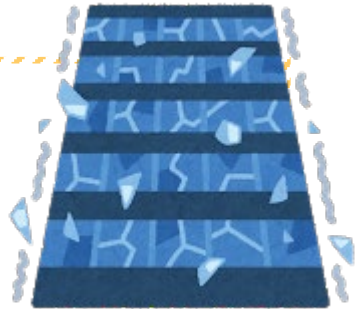
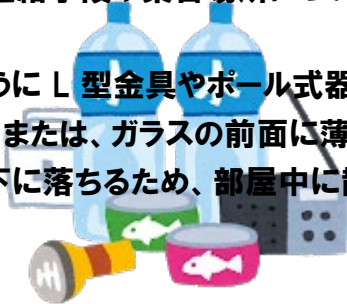
3. 連絡手段の確認

地震が発生したときの連絡手段や集合場所について、あらかじめ家庭で話し合っておきましょう。

4. 家具の固定

家具が倒れてこないように L 型金具やポール式器具をつける、引き出しや開き戸にストッパーの設置、ガラスの飛散防止のため飛散防止フィルムを貼る、または、ガラスの前面に薄手のレースやカーテンを引いておけばガラスが割れたとしても前にあるレースやカーテンに当たって真下に落ちるため、部屋中に散らばるのを防ぎます。実際に阪神・淡路大震災時には効果があったようです。

5. 訓練に参加する



津波

自分が住んでいる地域や通勤先、海や川でレジャーを楽しむ際にも「もしも」に備えるために以下のことを調べておきましょう。



津波注意



津波避難場所



津波避難ビル

海の近くに住んでいる人はもちろん、海水浴や釣り等のレジャーでよく知らない海辺を訪れた際にも、まずは周辺に津波注意のマークや避難場所を示す案内板や標識があるかどうかを確認しておきましょう。

津波標識

津波ハザードマップ

津波による災害範囲を予測した地図です。津波の起こりやすいエリアでは、過去の被害やシミュレーションをもとに作られています。市町村が運営している HP からダウンロードできたり、窓口で配布されていますので、あらかじめ入手しておきましょう。

台風

台風は事前に来ることが予想できる災害ですが、台風が接近してからの対策で被害に遭われる方も多くいます。台風が近づいているというニュースを見たり、聞いたりしたら以下の対策を行きましょう。

1. 家の周りの再点検をする

家の周りがあるもので強風によって飛ばされる可能性があるものは室内にしまいか、再点検しましょう。

2. 床上の浸水対策をする

家財や家電等は高所や 2 階に移動させましょう。電気のコンセントは漏電、ショート、感電等が発生する恐れがあるので抜いておきましょう。

簡易水のうの作り方

集中豪雨

家庭用のゴミ袋を 2 重・3 重にして、その中に半分程度水を入れ、きつく縛ります。これをたくさん作り隙間なく並べることで水の浸水を防げます。その他、この水の入ったゴミ袋を段ボール箱に詰めることで積み重ねて使うことができ、水のうだけの場合と比べて強度が増します。また、プランター等身の回りの重たいものにレジャーシートなどを巻き込み使用することもできます。